

難関大 あきらめないで

「難関大を目指したいけれど、自分の高校に先輩はいないし無理」。本格的な受験勉強に取り組む前から、悲観的になっている人はいないだろうか。東京大2年で、東大進学実績の少ない高校出身者が集まるサークルに所属する大島彩さん(19) 佐野高出身Ⅱに、受験情報などが少ない地方の高校ならではの悩みやその解消策について、アドバイスしてもらった。

(藤田りか)

佐野高出身 東大2年の大島さん

大島さんが所属するのは、「University of Tokyo Frontier Runners (UTFR)」。主に、出身校が「東大合格者1人かつ地方旧帝大合格者10人未満」の学生が集う。地方の高中生に勉強を教えるなど、東大を身近に感じてもらおうプロジェクトを行っている。

東大と書いたらC判定。予想はE判定だったので『可能性はある』と思っただ」と話す。

気軽に勉強法を聞ける先輩がいない中、役立ったのが東大生の合格体験記。特に実績の少ない高校の出身者が書いたものは、学習計画や使用教材などがとても参考になった。

モチベーションが上がらなかったり、ゲームがやめられなかったりしたときは、有名進学校出身

受験情報が少ない悩み…

合格体験記 参考に計画

者が書いた文章を読んだ。同様の悩みを抱えていたことを知り「私だけじゃない」と安心した。自宅学習では、授業で教わったことはその日のうちに教科書準拠のワークまで解くことを習慣付けた。部活動が忙しくても毎日最低2時間は机に向かった。

高校では、志望校は違うが切磋琢磨する友人にも恵まれた。また、先生に積極的に質問し、記述式の問題は添削してもらった。「自分で答え合わせをしても、どこまで正解に近いのか、何が足りないのか分からない」(大島さん) からだ。先生の添削で、正誤が明確になったという。

先生も過去の入試問題を研究するなどして、アドバイスしてくれた。「東大に毎年たくさん進学する学校では、こうした支援は受けられなかったかもしれない」と母校に感謝する。

大島さんは高校生へ「勉強を頑張ると決めたからには、全力で取り組んでほしい。今はつらいかもしれないが、乗り越えた先に世界が広がる」とエールを送っている。



勉強を頑張ろうとしている高校生にエールを送る大島さん
Ⅱ佐野市内